



校長室だより

令和5年度
10月11日
NO.26

躍動・協力・成長！陸上大会・球技大会

4年生の子の打つ太鼓が体育館中に響き、大きな声援が選手たちの背中を押します。150周年記念、男子ソフトボール部最後の大会、女の子だけ出場の陸上大会と、記念すべき大会にふさわしい選手激励会が、3日、盛大に行われ



ました。緊張した面持ちで、ユニフォームに身を包んだ晴れ姿で声援を受けて立つ選手たちは、大きく見えました。

思えば、6年生の子が部活動を始めたのは、コロナ禍でした。コロナ禍初期は特に、部活動も思うようにできない時期もありました。子供の成長に大事な、体と心を鍛えているはずなのに、どこか遠慮しながらの、ジレンマのある部活動であったと思います。そんな中でも、仲間と支え合い、学区の方にも応援してもらい、そして自身で自分を律しながら、考えながら、真剣に取り組んできました。



大会では子供たちの躍動する姿が見られました。4日は時折、雨のぱらつく天候でしたが、陸上の舞台としては最高の龍北グラウンドで、5、6年生の女子全員が、自分の種目で最高の活躍を見せてくれました。思えば今年は、9月に入っても、とても暑い日が続く中での練習でした。前日のリレーの練習ではあと少しで、男子に勝てそうでもあり、気持ちも盛り上がりました。当日、走った子からは、「短かった」という声も聞かれ、「もっと走りたい」、そんな思いが感じられました。雨で延期となった男子のソフトボールは、5日に本宿小学校で行われ、常磐南小学校と対戦しました。緊張の中、始まった試合は、追いかける展開となりましたが、子供たちは最後の最後まで、限られた時間の中、白球を追い続けました。一球一球、日頃の練習の成果を発揮できるよう、諦めずに戦う姿からは、子供たちの成長の姿が見られました。



大会を終えた子供たちは、晴れやかな顔をしていました。当然、思うような結果が出せなかった子も、活躍できなかった子もいるかもしれませんが、この1年間（6年生は3年間）、頑張ってきたことを後悔している子はいないのではないのでしょうか。こんな言葉があります。「結果に囚われない、成長に囚われる」。始めた頃と比べて、心も体も強くなった子供たちは、結果はどうあれ、部活動を通して「成長」し、それは小学校生活において大きな財産になったと言えるのではないのでしょうか。



そんな部活動も今、転換期にあります。これまで、子供たちの成長期の体を鍛えてきた部活動は、苦しい場面を乗り越える心や仲間と協力し合う喜びや楽しさ、こつこつと行う強さも育んできました。けれど、自分の好きなことができなかつたり、みんなで活動することが苦手な子がいたり、そうした価値観の多様化もあり、転機を迎えています。岡崎市でも現在、



地域移行を進め、部活動そのものも変わろうとしています、「だれ一人取り残さず」、体と心が成長できる子供の「成長の礎」を、部活動を含め、小学校で築いていければと思います。